平成２８年度「キャリア教育・就労支援等の充実事業」成果報告書

受託団体名	国立大学法人　熊本大学

Ⅰ　概要

１　モデル地域の概要

①モデル地域の種類

	Ⅰ型（連携型：特別支援学校高等部及び高等学校の連携）
○	Ⅱ型（単独型：特別支援学校高等部のみ）
	Ⅲ型（単独型：高等学校のみ）

②モデル校の一覧

設置者	学校種	課程又は障害種	学校名（ふりがな）
国立大学法人 熊本大学	特別支援学校	知的障がい	熊本大学教育学部附属特別支援学校 （くまもとだいがくきょういくがくぶふぞくとくべつしえんがっこう）

２　研究課題

卒業後の自立と社会参加に向けた系統的なキャリア教育の推進及び就労支援体制の構築並びにこれらに関する高等学校等へのセンター的機能についての研究

３　研究の概要

本校は、個別の教育支援計画を作成するための「支援者ミーティング」等の実施により、子どもたち一人一人の夢設定と支援についての共通理解、具体的な授業作りなどを行い、自立と社会参加を目指す教育支援を行うことで、キャリア教育の推進を図ってきた。また、高等部卒業後の丁寧な「フォローアップ」による就労定着支援を行い、「卒業のない学校」と呼ばれている。

しかしながら、「支援者ミーティング」後の教育実践、学習評価及び改善の往還に不十分さがあり、小学部段階からの育成を目指す資質・能力について体系的・系統的な整理や可視化に至っていない。また、社会から必要とされる資質・能力の育成に繋がるキャリア教育となっているか進路先や関係機関と検証するなど、福祉・労働・企業との結びつきが十分と言えない状況がある。

そのため、本研究では、就職支援ネットワーク会議を設置し、関係機関との連携・協力のもと、これまでの成果と課題を踏まえ、小学部段階から、キャリアステージが一般的に安定するとされる卒業 10 年後までを見通した本校の教育の在り方を総合的に研究し、「卒業のない学校」としての一貫したキャリア教育を追求した。

研究推進に当たっては、５つの重点取組に整理し、まずは、子どもの夢や希望から個別の教育支援計画を作成することから始め、小学部段階からの教育課程編成の在り方を検討した。また、社会の変化に対応できる育成を目指す資質能力を整理し、主体的・対話的で深い学びの視点で、子どもの学びを基盤とする授業改善を行った。更に、育成した力を働くこと、働き続けることにつなげるため、就労支援や

卒業後の「フォローアップ」体制の充実に取り組んだ。
　また、就職支援コーディネーターを配置するとともに「就労サポートすずかけ」を開設し、職場開拓や職場適応支援、卒業生の「フォローアップ」等を行いながら、本校の就労支援のノウハウを生かし、地域の高等学校等をサポートするセンター的機能の強化に取り組んだ。

４　研究の成果

　以下、５つの重点取組における成果概要について述べる。

１）キャリア教育の視点に基づく小学部段階からの一貫した教育支援

○学校教育目標を具体化した「育成を目指す資質・能力一覧表」や「支援者ミーティング」を軸とした授業作り体制及び「移行支援ミーティング」をはじめとする「フォローアップ」等の就労支援体制を明確にした「キャリア教育全体計画」を作成した。

○個別の教育支援計画作成のための「支援者ミーティング」における、近年の新たな支援関係機関への参加要請と「家庭等支援計画」の開発による家庭での取組や支援の具体化と評価の明確化ができた。

○年間指導計画と各教科との関連の明確化や指導の重点化を図るためのツール開発及び評価、指導内容別の授業時数の算出、また、それらを検討の材料としての教育課程の評価を行い、改善を図った。

２）自立と社会参加に求められるコンピテンシー（資質・能力）の育成

○小学部、中学部、高等部職員縦割りによる全職員体制で、本校児童生徒における「育成を目指す資質・能力一覧表」を検討し、作成した。

○「育成を目指す資質・能力一覧表」と学習指導案との関連の明確化を図り、授業における育みたい力と目標、指導内容、評価を一体的に捉えた学習計画及び実践を行うことができた。

３）主体的・協働的な学習活動が躍動する授業の創造

○小学部、中学部、高等部職員縦割りによる全職員体制で、アクティブ・ラーニングの視点（主体的・対話的で深い学び）を整理し、全職員の共通理解のもと、研究会及び授業実践ができた。

○高等部作業学習において「サービス班」を創設し、熊本大学内障がい者雇用チーム「愛Work」と連携した清掃業務及び、本校内に開設した「ショップ＆カフェＳＵＺＵＫＡＫＥ」における喫茶・販売業務に取り組み、状況に対応する適応力やコミュニケーション力など、これまでの物作りの作業学習班のみでは育みにくかった力に焦点化し育成することができた。

４）就労支援の充実とセンター的機能の強化

○就職支援コーディネーターと連携した実習先・職場開拓やアセスメントシートの開発により、生徒の進路先の拡大や適切なジョブマッチングが可能となった。

○就労支援に関する「進路支援フォーラム」を開催し、幼小中高校や福祉労働関係者など約400名の参加を得た。また、「すずかけイブニングセミナー」の開催では、発達障害の特性や支援事例、福祉事業所の役割等のシリーズ研修を全５回行った。延べ350名の参加者が研修を受け、地域の高等学校在籍の保護者や教師の参加もあった。

５）進路先との移行支援及び「フォローアップ」の可視化

○福祉的就労及び一般就労に係る10月から４月までの会議や手続き等において、学校と就労先、関係機関とが「移行支援ミーティング」にて、生徒の目標や支援等について情報共有や役割分担することを明確にした。そのことにより、「個別移行支援計画」を関係者共通の生きたツールとして活用することが可能となった。

○卒業後３・６・10年目の卒業生を対象に、それぞれの卒業生について学校が保護者や就労先、関係機関に呼びかけを行い、「定期フォローアップミーティング」を行った。現在の状況についての聞き取りや今後の目標や支援等について情報共有等をした。聞き取った卒業生の状況や課題等は、就労先や関係機関と対応するとともに、在校生の育成を目指す資質・能力や教育課程を検討する材料とした。

５　課題と今後の方策

１）キャリア教育の視点に基づく小学部段階からの一貫した教育支援

○個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成する際に、「育成を目指す資質・能力一覧表」や各教科の観点を参考にしながら、内容の偏りがないように目標の設定や評価を行う。

２）自立と社会参加に求められるコンピテンシー（資質・能力）の育成

○「育成を目指す資質・能力一覧表」の諸計画への関連付けや学部間の系統性の検証が十分図れなかったため、関連付けの程度や表現等について校内の統一化を図るとともに、各学部において優先的に扱う内容等の整理を行い、スケール化する。

○卒業後の「フォローアップ」のデータをもとに、内容等の見直しを行い、精度を高めていく。

３）主体的・協働的な学習活動が躍動する授業の創造

○知的障害のある児童生徒にとっての深い学びについて更なる検討と授業実践に努める。

４）就労支援の充実とセンター的機能の強化

○就職支援コーディネーターの継続雇用と連携した取組を行う。

○就労支援やセンター的役割をさらに果たしていくため、実践の積み重ねと支援事例の蓄積を行う。

５）進路先との移行支援及び「フォローアップ」の可視化

○「移行支援ミーティング」の実施結果を整理し、次年度の「フォローアップ」へ活用する。

○福祉的就労の場合は、より関係機関（相談支援事業所）と連携した「フォローアップ」体制作りが必要なため、在学中から進路担当者だけではなく、担任との情報共有も図っていく。

※本校の取組に対して、平成29年度も引き続き、就職支援ネットワーク会議を設置し、外部関係機関と意見交換や情報共有等、連携をより強化しながら教育課程の改善に取り組んでいく。